

所在地：熊本県宇城市 選定年月日：平成27年1月26日 面積：107.1ha 選定基準：二(一)(五)(七)(八)

## (1) 概要

三角浦の文化的景観は熊本県中西部に位置し、三角ノ瀬戸に面して展開します。三角ノ瀬戸は水深が深く、湾内は比較的穏やかで暴風・波浪等の影響を受けにくいことから、古代より八代海と島原湾とを結ぶ南北方向及び九州内陸部と天草諸島とを結ぶ東西方向の流通・往來の結節点として機能してきました。

三角ノ瀬戸は変化に富んだ海岸地形をしており、戦国時代に島津氏家老の上井覚兼(うわいかくけん)が和歌を詠むなど古くからの景勝地として知られています。近代になると小泉八雲など文人墨客が文学の舞台としたほか、熊本を本拠とする第六師団の保養地に指定され、現在も別荘が立地するなど、三角浦は保養都市として機能してきました。

また、明治20年(1887)に内務省雇いのオランダ人技師ムルデルの設計により近代港湾が建設され、三角港は屈指の拠点港として隆盛しました。築港と同時に計画的な市街地が整えられ、商業及び司法・行政地区等が設置されました。道路・水路等から成る建設当初の都市構造は現在も継承されています。

このように、三角浦の文化的景観は、保養都市及び特に近代以降に大きく発展した港湾都市という2つの都市機能が複合した文化的景観です。



三角浦遠景



集落内の街区及び水路



港湾区域



ガイドによる地区の案内

## （２）選定範囲



- ・ 重要な構成要素：26件
- ・ 国指定重要文化財：三角旧港(三角西港)施設（埠頭、排水路3所、後方水路、石橋4基）
- ・ 国登録有形文化財：旧三角海運倉庫(三角築港記念館)、龍驤館、宇城市国際交流村法の館(旧三角簡易裁判所本館)、宇城市国際交流村伝統工芸館(旧三角簡易裁判所弁護士等控室)、宇城市国際交流村重要資料展示室(旧三角簡易裁判所記録倉庫)、九州海技学院本館(旧宇土郡役所庁舎)、九州海技学院正門及び石垣(旧宇土郡役所正門及び石垣)
- ・ 宇城市指定文化財：旧高田回漕店

## （３）選定による効果

少子高齢化、過疎化が進む三角西港地域においては、地域コミュニティの維持が大きな課題となっています。選定を契機として、まちづくりや産業振興、保存活用などについて計画が策定され、学校、関係団体がイベントなどを実施するなど、様々な事業や関わりが生まれています。今後も三角浦の特性に鑑み、適切に保存活用しながら次世代に価値を継承できるよう、さらに行政や地域などの連携強化を図っていきます。



小学生交流学習



関係団体合同での清掃活動

## （４）保存活用計画などの基礎情報

- ・ 重要文化財三角旧港(三角西港)施設保存活用計画(平成25年3月、宇城市教育委員会)
- ・ 三角浦の文化的景観調査報告書/保存計画書(平成26年3月、宇城市教育委員会)
- ・ 重要文化的景観「三角浦の文化的景観」整備計画(平成30年3月、宇城市教育委員会)
- ・ ホームページ

[https://www.city.uki.kumamoto.jp/toppage/nishiko/nishiko\\_rekishi/2017044](https://www.city.uki.kumamoto.jp/toppage/nishiko/nishiko_rekishi/2017044)



## （５）活用事例

### 事例43-03 ①

### 歴史的な建物の公開活用

文化庁補助金

#### ●行政による取り組み

三角浦には、1件の国指定重要文化財（三角旧港（三角西港）施設）、7件の国登録有形文化財（宇城市国際交流村法の館（旧三角簡易裁判所本館）など）、1件の宇城市指定文化財（旧高田回漕店）と歴史的な建造物が多く点在しています。

公開活用施設としては、ガイダンス施設の龍驤館（要入館料）、海技免許取得教習施設の九州海技学院本館（旧宇土郡役所庁舎）、カフェレストランの旧三角海運倉庫（三角築港記念館）があり、その他の文化財についても一般に向けて無料公開しています。

また、例年、三角小学校をはじめとする宇城市管内の小学生が三角浦の歴史を学ぶために、総合学習の一環として見学に訪れるなど、次世代に向けて価値を伝える機会を大切にしています。

#### 小学生の声

三角浦の学習を通して、自分たちの住んでいる三角町についても深く考える機会になりました。これからも三角浦の良さをいろんな人に伝えていきたいです。



平成4年まで使用されていた旧三角簡易裁判所



石積み排水路



全長756mの石積み埠頭



龍驤館の耐震補強工事見学会

① 地域内での魅力の共有

② 活性化の目標の共有

③ 地域外への広報

④ 魅力を引き出す

⑤ 財源の確保と運用

⑥ 人づくり

## （５）活用事例

### 事例43-03 ②

### 三角西港観光ガイドの取り組み

文化庁補助金

#### ●住民や団体等による取り組み

旧三角町観光協会が母体の「三角西港観光ボランティアガイドの会」は平成14年に設立されました。

平成17年の市町村合併後、「三角西港観光ガイドの会」として再スタートし、ガイド養成講座で合格した地元有志メンバーによる9名（発足当時は18名）のガイドが、現在、三角西港の案内ガイドとして活躍しています。

地元の関連行事や各種ガイド研修、視察等に積極的に参加し、ガイドの資質向上に努めています。

行政や関係団体との連携をさらに深めながら、地元ガイドの育成及び次世代への継承を今後の課題として取り組んでいます。

#### 代表者の声（三角西港観光ガイドの会 齊藤万芳会長）

30年以上、三角西港に関わり、ガイドを行い、その為のマニュアル作りから、小学校総合学習の授業の支援などやるべきことをやってきました。種まきをしないと次の世代に伝えられない。残せない。そんな想いで続けています。



ガイドダンス施設「龍驤館」の展示説明



ガイドの様子



他県への現地視察研修



ガイド研修への参加

団体等情報： 三角西港観光ガイドの会（宇城市観光物産協会）  
<https://www.city.uki.kumamoto.jp/toppage/nishiko-guide/2017068>

① 地域内での魅力の共有

② 活性化の共有

③ 広域外への広報

④ 魅力を引き出す開発

⑤ 財源の確保と運用

⑥ 人づくり